

アジャイルプロセス入門 第Ⅱ部 テキスト
～ アジャイルプロセスを知る ～

第1版
2011/11/1



一般社団法人
西日本アジャイルプロセス協議会

アジャイルプロセス入門 第Ⅱ部

～ ユーザ企業におけるメリットと導入への留意点 ～

一般社団法人

西日本アジャイルプロセス協議会



Copyright by West Japan Agile Process Consortium



目次

- ・ 第5章 アジャイル開発を選択できる範囲
- ・ 第6章 ユーザ企業のメリット
- ・ 第7章 ユーザ企業における導入への留意点

第5章 アジャイル開発を選択できる範囲

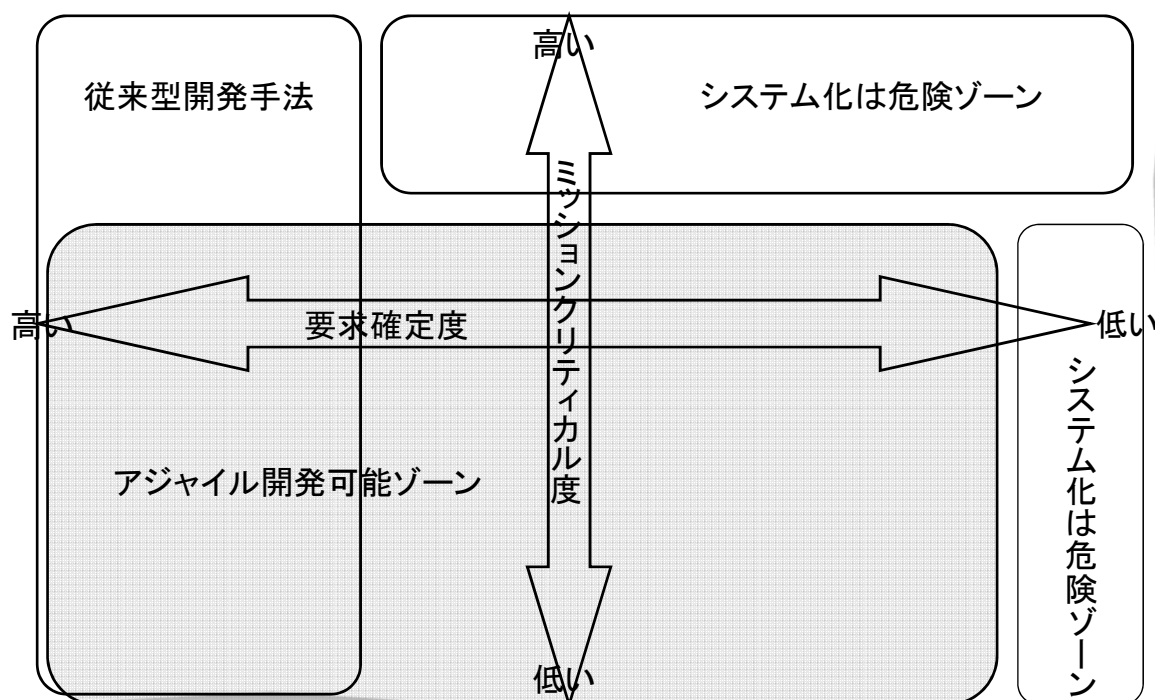
意外と、アジャイルは選択できる



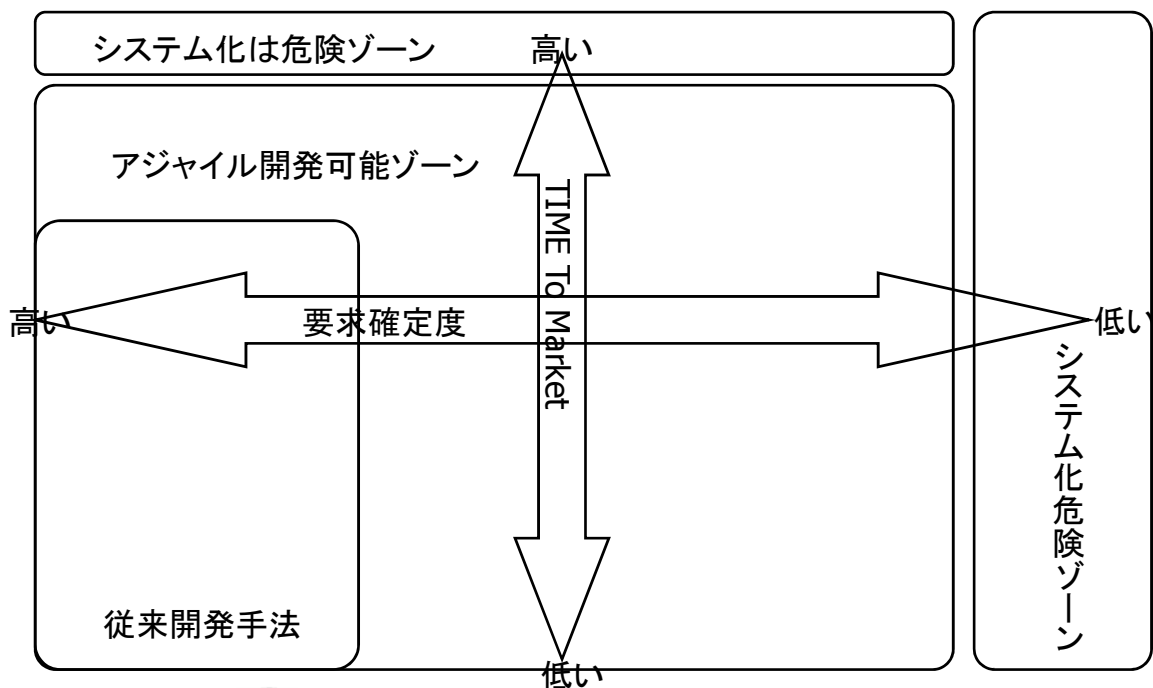
Copyright by West Japan Agile Process Consortium



要求確定度とシステムのクリティカル度



要求確定度とTime To Market



2011/11/1 Rev.1.0

アジャイルプロセス入門 第Ⅱ部
Copyright by West Japan Agile Process Consortium .

5

第6章 ユーザ企業のメリット

うまく導入すれば、効果は大きい

ユーザ企業のメリット

- すべてを最初に決めなくても良い。
 - 訳のわからない分厚いドキュメントがいない。
 - わからない未来のことに時間をかけなくてよい。
- 開発コストがあとから膨らまない。
 - 一定のコストで推移する。
 - 止めたいところで止められる。

ユーザ企業のメリット

- 要求が途中で変更できる。
 - 時間が経つと要求は変化する。
 - 「あれば良いなあ」程度の要求は、なくても良い。
- 段階的に運用開始できる。
 - 先行したい機能がリリースされ、ビジネス機会を逃さない。
- ビジネス価値でシステム開発を調達できる。

第7章 ユーザ企業における導入への留意点

システムは自分たちのもの



Copyright by West Japan Agile Process Consortium



何も決めなくても良いのではない

- 骨は決めておかないといけない。
 - システム導入の目的とゴールは明確に、揺らいではいけない。
 - すべての人に周知・徹底しないといけない。
 - システムの骨は、最初にきちんと決める。
- 要求に優先度がつけれないといけない。
 - 要求の整合性と順序付け、そして、全員の合意。
- 大きな変更はできない。
 - 安易な決定は、不幸を招く。

契約には注意

- 請負契約は、難しい。
 - － どこで、止めるのかを明確に。
 - － 成果物はどうするか決める。
 - － 瑕疵担保責任は求めにくい。
- 準委任契約
 - － 現状では、無難。
 - － 発注側の責任が大きい。
- 派遣契約
 - － 管理できるのか。
 - － 価値への支払いとの矛盾

顧客参加

- 「あとはお願ひ」、「システムのことは分からない」は出来ない。
 - － アジャイル開発は、顧客が参加します。
 - － 常に、参加できれば良いですが、なかなか難しい。
 - － 担当ごとに人が入れ替わっては、本当の顧客参加とは言いがたい。
 - － キーマンとなる人を決めましょう。
 - － その人には、決定権を委譲しましょう。
 - － 毎日はムリでも、毎週どこかの半日は参加できるように。

役割と責務

- 要求に対する責任は、顧客が持つ。
 - どの要求からシステム化するか。
 - その要求で得られるビジネス評価。
 - どこまで、システム化するか。
- リリースの最終決定は、顧客が持つ。
 - リリースによる周りの責任も持つ。
- 顧客側の「都合」に責任を持つ。
 - 開発に影響を与える顧客の色々な「都合」に対して、開発への猶予、費用、顧客側の調整。

<http://www.wjapc.jp/>

著者

新保康夫、猪原信彦、谷本誠、
前野公孝、山根英次、日野数司、
松本真一、神谷厚輝、八木希仁、
塩田英二

アジャイルプロセス入門 第Ⅱ部 テキスト
～ ユーザ企業におけるメリットと導入への留意点 ～

発行 2011年11月1日 第1版
監修 一般社団法人西日本アジャイルプロセス協議会
著者 西日本アジャイルプロセス研究会

©一般社団法人西日本アジャイルプロセス協議会

WJAPC
West Japan Agile Process Consortium